

(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上

学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体の教育力の向上に努める。

- ア 学校と地域の協働による教育活動の充実
- イ 家庭教育支援の充実
- ウ 地域全体で子どもを育むための仕組みづくり

生涯学習課

地域みんなでつくる子どもの安全・安心実践事業

[事業目的及び概要]

地域全体で子どもの見守り活動に参加するという機運を定着させ、地域が協働して見守り活動できるようになることを目的として、地域の方々が、子どもの安全力を引き出すワークショップを実施する技術を学ぶための講習会を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

地域で子どもの見守り活動をする人を対象とし、子どもと大人と一緒に「予防力(よく見る、よく聞く)」と「対処力(逃げる、伝える)」を学ぶことのできるワークショップを開催した。

うさぎママのパトロール教室主宰の武田信彦氏を講師に、「子どもの安全力を引き出すためのコッケー地域で子どもを見守ろう」というテーマで30分程度の講演を行った。講演では、安心の輪を広げる、「安全力」をつなげる、防犯活動を楽しく続ける、子どもたちの気づきを大切にすることなどのポイントが示された。その後「あんぜんパワーアップセミナー」のワークショップを行い、実際に体験して学んだ。

| 開催地 | 開催日 | 会場 | 参加人数 |
|-----|---------------------|-------------|------|
| 八戸 | 9/18(水) 10:00~12:00 | 八戸市総合福祉会館 | 100名 |
| 弘前 | 9/24(火) 10:00~12:00 | 青森県武道館 | 50名 |
| 青森 | 9/25(水) 10:00~12:00 | 県総合社会教育センター | 33名 |

また、本事業の成果物として「子どもの安全力を引き出してみませんか？ー子どもの安全・安心を守るためにー」というリーフレットを7,000部作成し、市町村教育委員会、小学校、公民館、図書館、防犯団体、主任児童委員等へ配布した。

[成果と課題]

学校支援ボランティア、児童館職員、子育て支援関係者等の参加者のほか、八戸地区では、主任児童委員研修会との共催としたことにより、多くの主任児童委員がワークショップを実施する技術を習得できた。

地域ので夢を育む教育支援プラットフォーム事業

[事業目的及び概要]

地域の教育資源を生かしたキャリア教育を推進することを目的とし、学校教育の一層の充実と社会全体の教育力向上を目指して、「学校」と「企業・NPO等」を結ぶ仕組みである「教育支援プラットフォーム」を構築する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 教育支援の推進に向けた基盤整備

ア 普及・啓発

(ア) 青森県教育支援推進協議会の運営

第1回協議会

○開催日：6/21(金)

○会場：県総合社会教育センター

○内容：平成24年度の取組と課題等

第2回協議会

○開催日：2/25(火)

○会場：県総合社会教育センター

○内容：平成25年度の取組状況、本事業における2年間の成果、今後の取組等

(イ) 「キャリア教育を進めるための出前授業、職場体験活動ハンドブック」の配付

○配付先：県内小・中・高等・特別支援学校、「我が社は学校教育サポーター」登録企業・NPO等、及び教育支援プラットフォーム関係者等

(ウ)「つながろう地域と！つなげよう未来へ！地域の力で夢を育む教育支援活動プログラムメニュー集」の作成・配付

教育支援プラットフォームを活用した学校の実践事例及び企業・NPO等による出前授業や職場体験等のプログラムをまとめ、学校においては地域と連携したキャリア教育の参考に、企業・NPO等においては学校への教育支援の参考とする。

○作成部数：2,000部

○内容：学校での実践事例13例、企業・事業所等の提案プログラム16事例を紹介

○配付先：県内小・中・高等・特別支援学校、「我が社は学校教育サポーター」登録企業・NPO等、及び教育支援プラットフォーム関係者等

(エ)「生涯学習フェア2013」における県民（企業等）一般の教育支援活動に対する意識啓発

○開催日：10/5(土)

○会場：県総合社会教育センター

○内容：「ジョブブランド」：「我が社は学校教育サポーター」登録企業、各地区協議会等のパネル展示

産業教育生徒発表会「元気！高校生 目指せトップランナー」：専門高校生徒による実習・体験・展示

イ ネットワーク構築

(ア)教育支援活動推進員ネットワーク会議の開催

○開催日：7/24(水)

○会場：県総合社会教育センター

○内容：「出前授業、職場体験活動ハンドブック」の活用、各地区協議会報告、情報交換等

(イ)ポータルサイトの運用

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/platform.html>

(2) 教育支援プラットフォームの構築・運営

ア 各地区協議会の運営(中南・上北・下北地区)

イ 各地区連絡協議会の設置と運営(東青・西北・三八地区)

ウ 教育支援活動推進員の養成

(ア)ブラッシュアップ研修会の開催

○開催日：10/18(金)

○会場：県総合社会教育センター

○内容：パネルディスカッション、推進員研修(意見交換会)

(イ)各地区協議会における研究会の開催

(ウ)教育支援活動推進員数 ※H26/3/31 現在

| 地区 | 東青 | 西北 | 中南 | 上北 | 下北 | 三八 | 合計 |
|----|-----|----|----|----|----|----|-----|
| 人数 | 13名 | 4名 | 7名 | 1名 | 5名 | 2名 | 32名 |

エ 学校のニーズ調査と教育支援活動が可能な企業・NPO等の登録

「我が社は学校教育サポーター」登録数 ※H26/3/31 現在

| 地区 | 東青 | 西北 | 中南 | 上北 | 下北 | 三八 | 県域 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 登録数 | 235 | 118 | 132 | 122 | 112 | 119 | 8 | 846 |

オ 教育資源を活用した学習プログラムメニューの開発と実践

(ア)上北地区協議会

教員、企業やNPO等の関係者及び教育支援活動推進員が一緒になって、企業の教育資源や素材を学校教育に取り入れるための教育プログラム開発研修会を実施(7/29(月))。

上記研修会で作成したプログラムをもとに「生きる・働く・学ぶをつなぐワクワクする授業」を実施(2/14(金))。

(イ)下北地区協議会

地域の様々な職業人を講師として招き、子どもたちが生きることや働くことについて学び、簡単な仕事体験もできる「ユメココ教室」という出前授業プログラムを作り、地区の小学校において実施(実践校数7校)。

(ウ)中南地区協議会

大学の教育資源の利用と学生(弘前大学教育学部生)の実習を兼ねた幼稚園や保育園における読み聞かせのプログラムを作成し、大鰐町の保育園で読み聞かせ会を実施(10/19(土))。

カ 企業・NPO等の支援による教育活動の展開

(ア)教育支援プラットフォームを活用した実践校数 ※()内は地区プラットフォームの実践

| 地域別 | 東青 | 西北 | 中南 | 上北 | 下北 | 三八 | 県外 | 合計 |
|-----|----|----|-------|-------|--------|----|----|--------|
| 校数 | 26 | 4 | 13(9) | 10(8) | 10(10) | 1 | 2 | 66(27) |

(イ)校種別、学習内容別の内訳

| 校種 学習内容 | 小学校 | 中学校 | 高校 | 特別支援学校 その他 | 合計 |
|------------|-----|-----|----|---------------|----|
| 出前授業 | 25 | 11 | 1 | 4 | 41 |
| 職場見学 | 5 | 1 | 2 | - | 8 |
| 職場実習 | - | 8 | 6 | 3 | 17 |
| 合計 | 30 | 20 | 9 | 7 | 66 |

[成果と課題]

これまでの取組により、地域でキャリア教育を支える仕組みづくり、人づくり、ネットワークの形成が着実に進み、学校では地域の教育資源を活用した学習活動が重要との認識が高まっている。また、企業等では社員の仕事への意欲向上につながり、教育支援活動への意識が高まっているとの声が聞かれる。

一方で、実践の深化に向けて、教育支援活動推進員のコーディネーターとしての更なるスキルアップ、学校と企業の協働によるプログラムの開発といった課題が明らかになってきている。

そのため、「横の連携」に基づく教育支援プラットフォームの仕組みを更に充実させるとともに、小・中・高等学校の「縦の連携」に向けた方策を併せて活用し、キャリア教育の一層の充実を図る取組を展開していく必要がある。

地域の教育力による学校支援活動推進事業

[事業目的及び概要]

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校・家庭・地域の連携を強化し、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることを目的として、地域の教育力による学校支援活動の充実と一層の活性化を図る事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 地域の教育力による学校支援活動推進委員会

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、学識経験者等で構成し、学校支援ボランティア活動の諸課題や、より一層の活動の推進について検討する。年2回開催。

(2) 市町村補助事業

地域の教育力の向上を目的として、学校支援センターを開設し、地域ぐるみで学校を支援する体制づくりを進める。

○取組予定市町村：17市町村 84校（小60校、中24校） 68学校支援センター

○内容：小・中学校の余裕教室等を活用した学校支援者の活動拠点を確保、学校支援コーディネーターの配置、学校支援ボランティア活動の実施

| 番号 | 取組市町村 | 小学校 | 中学校 | 学校支援 センター数 | 番号 | 取組市町村 | 小学校 | 中学校 | 学校支援 センター数 |
|----|-------|-----|-----|---------------|----|-------|-----|-----|---------------|
| 1 | 外ヶ浜町 | 3 | 0 | 3 | 10 | 三沢市 | 3 | 0 | 3 |
| 2 | 今別町 | 1 | 1 | 1 | 11 | 野辺地町 | 3 | 1 | 1 |
| 3 | 五所川原市 | 7 | 2 | 9 | 12 | 七戸町 | 3 | 2 | 5 |
| 4 | 深浦町 | 3 | 2 | 5 | 13 | 横浜町 | 1 | 0 | 1 |
| 5 | 板柳町 | 4 | 1 | 5 | 14 | 佐井村 | 1 | 1 | 1 |
| 6 | 中泊町 | 2 | 0 | 2 | 15 | 八戸市 | 10 | 6 | 16 |
| 7 | 弘前市 | 0 | 2 | 2 | 16 | 五戸町 | 2 | 1 | 3 |
| 8 | 黒石市 | 3 | 0 | 3 | 17 | 南部町 | 8 | 4 | 1 |
| 9 | 平川市 | 6 | 1 | 7 | 合計 | 17 | 60 | 24 | 68 |

(3) 学校と地域の連携による教育活動実践セミナー

教務主任、研修主任等中核となる教員を対象に地域の教育力を活かした学習活動と教員の果たすべき役割についての研修を行い、学校と地域の連携による教育活動の推進を図る。

○内容：講義「青森県のキャリア教育の現状について」

「学校と地域が連携したキャリア教育の取組状況について」

| 開催地区 | 開催日 | 開催会場 |
|------|----------|------------|
| 三八 | 10/24(木) | 八戸市福祉公民館 |
| 下北 | 11/11(月) | むつ合同庁舎 |
| 西北 | 11/14(木) | 五所川原市金木公民館 |

【成果と課題】

地域住民によるボランティア活動によって地域との連携が深まり、子どもたちの学習意欲の向上等にもつながった。地域の方とふれあうことで、小学生は地域への愛着が増したり理解が深まるのに対し、中学生は将来について考えるきっかけになるなど、年齢に相応した感じ方をしている。

今後も、推進委員会において活動の推進について検討しながら、活動を拡げていく。

放課後子どもプラン（放課後子ども教室推進事業）

【事業目的及び概要】

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 放課後子どもプラン推進委員会

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者等で構成し、全児童の放課後対策の諸課題について協議するとともに、放課後対策事業の実施方針、安全管理方策、広報活動方策の策定や、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等を行った。

○委員：12名

○回数：2回

(2) 指導者研修

放課後子ども教室関係者と児童クラブ関係者等を対象とした指導員研修を実施した。

ア 放課後子どもプランコーディネーター等研修

○主管：県総合社会教育センター

○参加人数：計257名

○内容等

| | | |
|----|--|-----------------------|
| 前期 | 【開催日】6/6(木)～7(金) 【参加人数】152名 【会場】県総合社会教育センター | |
| | 【内容】・講義「学校、保護者、地域との連携」 ・情報交換「現場が抱える悩みや課題」 弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 ・講義「特別な支援を要する子どもの理解と関わり方」 NPO法人発達障害サポートセンター YOU MEディレクター 前田 淳裕 ・事例紹介「岩手県沿岸の放課後子ども教室における災害時の対応や防災に関わる取り組み」 釜石小学校支援地域本部 地域コーディネーター 寺田 恵美子 釜石市教育委員会生涯学習スポーツ課生涯学習係 社会教育主事 白岩 健介 | |
| 後期 | 東北町民文化センター会場 | 青森県武道館会場 |
| | 【開催日】9/25(水) 【参加人数】62名 | 【開催日】9/3(木) 【参加人数】43名 |
| | 【内容】(2会場共通) ・講義・演習「子どもに起こりやすい怪我や事故への手当と予防」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 ・実技演習「作って遊ぼう、身体で遊ぼう」 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子 / 副代表 藤谷 みのり 青森県立種差少年自然の家職員 藤崎町文化センター 主任 古川 秀子 青森県立梵珠少年自然の家職員 | |

イ 放課後子どもプラン指導員等研修

○主管：各教育事務所

○参加人数：計1,019名

| | | |
|----|----|--|
| 東青 | 前期 | 【開催日】6/18(火) 【会場】県総合社会教育センター 【参加人数】65名 |
| | | 【内容】講演・演習「子どもの社会性を伸ばす支援のあり方」 弘前医療福祉大学 准教授 小玉 有子 |

| | | |
|----|----|---|
| | 後期 | 【開催日】9/11(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加人数】55名 【内容】実習「身近なものを使ったもの作り」 NPO 法人ひろさきレクリエーション協会 理事長 小関 潤子 |
| 西北 | 前期 | 【開催日】6/19(水) 【会場】つがる市生涯学習交流センター「松の館」【参加人数】81名 【内容】演習「おはなしと音楽で遊ぼう」 平川市読書推進運動協議会 会長 今井 千都子/盛 隆 情報交換「私が計画・実践している活動メニュー」 |
| | 後期 | 【開催日】10/29(水) 【会場】つがる市生涯学習交流センター「松の館」 【参加人数】82名 【内容】演習「子どもたちと楽しむ科学実験と工作」 |
| 中南 | 前期 | 【開催日】7/12(金) 【会場】弘前市立中央公民館岩木館 【参加人数】103名 【内容】講義・演習「みんながともに育ち合うための生活づくり」 青森中央短期大学 専任講師 松浦 淳 |
| | 後期 | 【開催日】9/18(火) 【会場】弘前市立中央公民館岩木館 【参加人数】100名 【内容】講義・実技「簡単工作とその活用～身近な材料を使って～」 NPO法人ひろさきレクリエーション協会 会長 薬師山 正人 |
| 上北 | 前期 | 【開催日】6/26(水) 【会場】七戸町中央公民館 【参加人数】113名 【内容】講義・実技「すぐに活用できるレクリエーション」 青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹 |
| | 後期 | 【開催日】9/4(水) 【会場】七戸町中央公民館 【参加人数】98名 【内容】講義・ワークショップ「子どもたちの豊かな放課後のために」 弘前大学 講師 深作 拓郎 |
| 下北 | 前期 | 【開催日】6/21(金) 【会場】むつ市公民館【参加人数】77名 【内容】講義「特別な支援が必要な子どもの理解と対応」 弘前医療福祉大学 准教授 児玉 有子 |
| | 後期 | 【開催日】10/16(水) 【会場】むつ来さまい館【参加人数】60名 【内容】講義・実習「すぐに活用できるレクリエーション」 青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹 |
| 三八 | 前期 | 【開催日】5/21(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加人数】113名 【内容】講義・ワークショップ「『気がかり』な子どもの支援に向けて」 弘前大学 准教授 増田 貴人 |
| | 後期 | 【開催日】10/1(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加人数】72名 【内容】講演・実技「身近なものを使って遊ぶ楽しさと意味」 NPO法人ひろさきレクリエーション協会 理事長 小関 潤子 |

(2) 放課後子ども教室推進事業費補助

放課後子ども教室推進事業を実施する市町村(中核市青森市を除く)に補助金を交付した。

○実施市町村：24 市町村(87 子ども教室)

平内町 外ヶ浜町 今別町 つがる市 深浦町 中泊町 鶴田町 平川市
藤崎町 大鱈町 十和田市 七戸町 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町
むつ市 大間町 風間浦村 佐井村 八戸市 三戸町 五戸町 階上町

[成果と課題]

放課後子ども教室は、青森市を含めると 25 市町村で 96 教室が開設され、地域の特性を生かしてスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等に取り組まれている。放課後子どもプランにかかわる研修会には年間 1,200 名を越える参加があり、指導員等の資質の向上に資する研修となっている。

今後は、放課後子ども教室が学校運営の円滑化に資するように地域の教育力を生かしながら活動を充実させていく必要がある。

障害者家庭教育学級開設

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の父母等が、子どもの健やかな成長のために、障害児の心理や行動について理解を深めたり、家庭教育上の課題や卒業後の就労等について必要な知識を習得したりするとともに、同じ

悩みを持つ父母同士並びに地域住民と交流を深める機会とするため実施する事業である。

【事業内容及び結果】

| 期 間 | 開催場所 | 回数 | 時間 | 参加者数 | 主 な 内 容 |
|--------|--|----|----|------|--|
| 6月～10月 | 青森第一養護学校 | 5 | 12 | 80 | パン作り教室、講話「災害時の介護を考えよう」、施設見学会、スイッチ作り、iPod教室 |
| 6月～12月 | 青森第二養護学校 | 4 | 12 | 57 | 校長講話、耳つぼ健康法、救急救命法、元気がわくメイクアップ講座、教頭講話、お菓子作り |
| 6月～1月 | 青森若葉養護学校 | 5 | 13 | 41 | 親子で学ぼう救急法、伝統文化に親しもう、若葉祭、親子で楽しく昼食を食べよう、コサージュ作り |
| 6月～11月 | 青森第一高等養護学校 | 5 | 15 | 165 | 運動会参加、福祉に関する勉強会、プリザーブドフラワー制作、地区合同研修会、文化祭での学級生作品展示 |
| 5月～11月 | 青森第二高等養護学校 | 4 | 11 | 94 | 花の植え、茶話会、クリーニング作業体験、二高養祭参加（バザーの活動準備・実施）、アロマの調合 |
| 6月～10月 | 県立盲学校 | 4 | 14 | 85 | 運動会参加、清掃奉仕・花壇整備、地区合同研修会参加、県盲祭参加 |
| 5月～1月 | 青森聾学校 | 6 | 13 | 148 | 昼食交流、家族レクリエーション、青聾祭模擬店への協力、三校合同研修会「耳鼻咽喉科疾患について」 |
| 6月～1月 | 浪岡養護学校 | 10 | 23 | 164 | スポーツ交流（ヨガ）、PTA研修会「自立と地域生活」、器の模様付け、お菓子作り教室 |
| 5月～11月 | 弘前第一養護学校 | 4 | 17 | 320 | PTA講演会、障害者福祉施設見学、PTAバザー |
| 5月～10月 | 弘前第二養護学校 | 8 | 29 | 268 | 運動会参加、救命救急法、親子レクリエーション（風船バレーボール）、施設見学、学習発表会（ミニバザー開催） |
| 6月～2月 | 弘前聾学校 | 7 | 14 | 62 | 給食試食会、地区合同研修会「障害のある子どもたちの成長」、手話講座、レクリエーション（ヨガ） |
| 6月～12月 | 八戸第一養護学校 | 5 | 19 | 80 | 食について考える、施設見学・体験、クリスマスリース制作 |
| 6月～1月 | 八戸第二養護学校 | 4 | 17 | 201 | 施設見学会、社会見学、二北三八地区合同研修会「障害のある子どもたちのきょうだいたち」、進路学習会 |
| 5月～12月 | 八戸盲学校 | 6 | 16 | 17 | 環境美化、パソコン教室、障害者スポーツ体験（子どもと一緒にグランドソフトボールをしよう） |
| 5月～2月 | 八戸聾学校 | 6 | 18 | 69 | 運動会参加、自然体験活動、合同奉仕作業（装飾・清掃） |
| 6月～9月 | 森田養護学校 | 3 | 10 | 76 | 性に関する研修会、田んぼアートを見に行こう、福祉サービス説明会 |
| 6月～12月 | 黒石養護学校 | 5 | 11 | 70 | 津軽伝統工芸館体験学習、職場・施設見学、黒養祭「お楽しみコーナー」 |
| 7月～12月 | 七戸養護学校 | 4 | 14 | 42 | 進路講話、障害者福祉施設見学、調理活動（じゃがいもカレーパン） |
| 6月～10月 | むつ養護学校 | 6 | 15 | 180 | 学校長講話、環境教室、父母学習会「川柳を楽しもう」、レクリエーション教室、施設見学 |
| 合計 | のべ回数 101回 のべ時間 296時間 参加者数合計 2,219人 | | | | |

【成果と課題】

参加者が特定の方に偏りがちであったり、参加者が増えないという課題があるなかで、関心の高いテーマを講演の題材としたり、一人一人の悩みに対する解決策となるような内容を設定するなどの工夫に

より、参加者からは高い評価を得ている。

また、学校行事との共催により、ボランティアで来校した大学生や高校生との交流の場ともなっている。

子どものキャリアを育む家庭のチカラ推進事業

〔事業目的及び概要〕

家庭におけるキャリア教育の推進を目的として、キャリア教育への理解を促進する啓発を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり子ども職場参観日
 - 親の働く姿を見せる取組の実施を企業・事業所等に呼びかける。
 - 24年度・25年度の実施企業・事業所について取組の様子や感想を事例集にまとめ、県内企業等へ送付する。
 - あおもり子ども職場参観日実施期間：7/1～1/31
 - 実施数：20企業・事業所等
 - 参加者数：287名
 - 取組の様子・感想の紹介：県庁ホームページ、事例集
- (2) 家庭におけるキャリア教育実践エピソードの募集・情報発信
 - 子どもの自立に向けて、家庭で実践しているエピソードを募集する。
 - 「わが家の1か条」募集期間：7/20～9/30
 - 応募数：323通
 - 応募作品の紹介：県庁ホームページ、キャリア教育啓発パンフレット他
- (3) 啓発パンフレットの作成
 - キャリア教育の必要性と家庭の役割について啓発するパンフレットを作成する。
 - 中学生の保護者向けパンフレットの作成：42,000部

〔成果と課題〕

あおもり子ども職場参観日は、子どもは働く事の大変さを感じたり、親は自分の仕事について伝える機会となった。2年連続で取り組んだ企業・事業所等も多数あった。

また「わが家の1か条募集」では様々な年代から応募があり、家庭内で話し合うきっかけとなった。家庭でのキャリア教育は今後も必要であることから、これまでの取組事例や応募作品をホームページで活用し、発信していく。家庭でのキャリア教育の必要性と家庭の役割についてその理解を一層進めていくことが必要である。

家庭教育支援推進事業

〔事業目的及び概要〕

家庭教育支援の推進を目的として、これまで育成した支援者を活用して「あおもり家庭教育アドバイザー」を派遣するなど、今日的課題に対応した学習や取組を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 家庭教育支援推進協議会の設置
 - 家庭教育に関する今日的課題に対応し、家庭教育支援の活性化を図る取組について協議、運営する。
 - 委員：10名
 - 開催回数：年2回
- (2) あおもり家庭教育アドバイザーの養成・派遣
 - 「あおもり親楽プログラム」を活用した学習を進行する家庭教育アドバイザーを養成・派遣した。
 - あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

| | 日時 | 会場 | 参加者数 | 内容 |
|------|--------------------|----------|------|--|
| 青森 | 6/6(木) 6/11(火) | アピオあおもり | 34名 | 講義「家庭教育支援の現状と家庭教育の現状と家庭教育アドバイザーの役割」 演習「あおもり親楽プログラムの実際」 演習「オリジナルあおもり親楽プログラム」作成 など |
| 七戸 | 6/25(火) 7/ 5(金) | 七戸町中央公民館 | 20名 | |
| 五所川原 | 9/ 5(木) 9/10(火) | 金木公民館 | 19名 | |

総参加者数：73名

あおもり家庭教育アドバイザー登録者数：37名

○あおもり家庭教育アドバイザー派遣 2回

(3) 学習テキストの作成

家庭教育に関する今日的課題に対応した学習プログラム「あおもり親楽プログラム」を作成する。

○「あおもり親楽プログラム(2 中・高校生編)」の作成 1,500部

(4) 情報交換会の開催

家庭教育支援者等の資質向上と、その連携を促進する研修会を実施する。

○家庭教育支援情報交換会 10/31(木) 参加者数：46名

[成果と課題]

子どもの発達課題や親の関わりについて、親同士が話し合い主体的に学び合う学習プログラム「あおもり親楽プログラム」(2 中高校生編)を作成した。今年度の学習テキストは、中高生の保護者及び中高生を対象にしたプログラムとした。あおもり家庭教育アドバイザーを保育園や小学校PTA研修会に派遣した。

今後は、家庭教育アドバイザーの養成・派遣を充実させ、団体等の要望に応じて柔軟に派遣する仕組みを考え、今日的課題に対応した学習の普及を図る必要がある。

総合社会教育センター

絆でつながる家庭教育支援セミナー

[事業目的及び概要]

子育てを地域全体のものとして捉え、子どもを真ん中において支え合う地域の絆を育むことで、子どもたちが健やかに成長する環境づくりに取り組むために、各市町村に出向いて支援者育成講座を行い、地域課題を解決していけるような地域密着型の家庭教育支援者を育成する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 基礎コース開催市町村と応用コース開催市町村の2つのコースが交流しながら講座の企画・運営について学ぶ。

○場 所：県内4市町村(2地区各2市町村)

- ・三八地区 五戸町—基礎コース
南部町—応用コース
- ・中南地区 大鰐町—基礎コース
藤崎町—応用コース

○参加者：受講者数 81名 実践活動参加者数 251名

- ア 基礎コース
 - 1. 家庭教育基礎講座(家庭教育の現状と課題等)
 - 2. 応用コースのプログラム実践参加(評価)
 - 3. プログラムづくり講座(入門編)
 - 4. プログラム実践
 - 5. 基礎スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
 - 6. 共通スキルアップ講座(応用コースと共通)
- イ 応用コース
 - 1. プログラムづくり講座(応用編)
 - 2. プログラム実践
 - 3. 応用スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
 - 4. 基礎コースのプログラム実践参加(評価・助言)
 - 5. 基礎スキルアップ講座の運営(講師・運営)
 - 6. 共通スキルアップ講座(基礎コースと共通)

| 開催地区・コース | 回 | 開催日 | 内 容 |
|----------|------------------|-----|---|
| 三八地区 | 基礎コース (五戸町会場) | 1 | 5/21(火) 講義・演習：家庭教育支援基礎講座「子育て親育ち」～家庭教育を考える～ 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子 |
| | | 2 | 6/29(土) 応用コースに参加 活動実践：「親子で ホップ！ ステップ！ ダンス！」 講師：バトンチームA r i e s (アリエス) 小笠原 祐子 |
| | | 3 | 7/2(火) 演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師：県総合社会教育センター職員 |
| | | 4 | 8/24(土) (活動実践プログラム) 活動実践：「くつろぎサロン」～夏の疲れを癒しましょう。さあリフレッシュして子育て～ 講師：あんよ・セラピー共育研究会 代表 境 江利子 整体師 宮崎 一枝 青森バルーン集団 ねじりんご 大南 累世 |
| | | 5 | 8/28(水) 応用コースと共通 講義・演習：「心によりそうカウンセリング」～カウンセリングに大切なこと～ 講師：上級教育カウンセラー 佐々木 順子 |
| | | 6 | 9/6(金) 応用コースと共通 (南部町会場) 講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・子育て支援について考えるー」 交流会：「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ！ 講師：弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 |
| | 応用コース (南部町会場) | 1 | 5/27(月) 演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師 県総合社会教育センター職員 |
| | | 2 | 6/29(土) (活動実践プログラム) 活動実践：「親子で ホップ！ ステップ！ ダンス！」 講師：バトンチームA r i e s (アリエス) 小笠原 祐子 |
| | | 3 | 7/20(土) 講義：「若い世代を取り込むためのアピールのあり方」 演習：「時と場に応じた読み聞かせの仕方」 講師：NPO八戸未来ネット (子どもはっち) 代表 平間 恵美 |
| | | 4 | 8/24(土) 基礎コースに参加 活動実践：「くつろぎサロン」～夏の疲れを癒しましょう。さあリフレッシュして子育て～ 講師：あんよ・セラピー共育研究会 代表 境 江利子 整体師 宮崎 一枝 青森バルーン集団 ねじりんご 大南 累世 |
| | | 5 | 8/28(水) 基礎コースと共通 (五戸町会場) 講義・演習 「心によりそうカウンセリング」～カウンセリングに大切なこと～ 講師：上級教育カウンセラー 佐々木 順子 |
| | | 6 | 9/6(金) 基礎コースと共通 講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・子育て支援について考える」 交流会：「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ！ 講師：弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 |
| 中南地区 | 基礎コース (大鰐町会場) | 1 | 8/19(月) 講義・演習：家庭教育支援基礎講座「子育て親育ち」～家庭教育を考える～ 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子 |
| | | 2 | 9/29(日) 応用コースに参加 活動実践：「不思議ワールド」～家族で楽しむ科学マジックの秘密～ 講師：日本教育文化研究所 理事 神田 昌彦 |
| | | 3 | 10/1(火) 演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師：県総合社会教育センター職員 |
| | | 4 | 11/10(日) (活動実践プログラム) 活動実践：「男子厨房に入って料理を作ろう！」～男の手料理で家族を笑顔に～ 講師：大鰐自然村 三浦 隆史 佐々木魚店 阿部 秀昭 エステサロンほほえみ 山内美恵子、齊藤 美子 わにっこわくわく読書会 黒石 洋子、前田 久子 |
| | | 5 | 11/26(火) 応用コースと共通 事例発表：「笑顔が見たくて ～出会いがはじまり～」 講師：一関市教育委員会 社会教育指導員 齊藤 裕美 講義：「子ども、家族のチカラに寄り添う支援とは」 講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 一般社団法人子どものエンパワメントいわて代表理事 山本 克彦 |

| | | | |
|------------------|--------------------------|---|---|
| 応用コース (藤崎町会場) | 6 | 12/11(水) 応用コース と共通 (藤崎町会場) | 講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・子育て支援について考えるー」 交流会：「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ！ 講師：弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 |
| | 1 | 8/23(金) | 演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師：県総合社会教育センター職員 |
| | 2 | 9/29(日) (活動実践プログラム) | 活動実践：「不思議ワールド」～家族で楽しむ科学マジックの秘密～ 講師：日本教育文化研究所 理事 神田 昌彦 |
| | 3 | 10/19(土) | 講義・演習 「一時預かり事業の心得」 講師：NPO 法人むつ下北子育て支援ネットワークひろば 代表理事 小川 千恵 |
| | 4 | 11/10(日) 基礎コース に参加 | 活動実践：「男子厨房に入って料理を作ろう！」～男の手料理で家族を笑顔に～ 講師：大鱒自然村 三浦 隆史 佐々木魚店 阿部 秀昭 エステサロンほほえみ 山内美恵子、齊藤 美子 わにっこわくわく読書会 黒石 洋子、前田 久子 |
| | 5 | 11/26(火) 基礎コース と共通 (大鱒町会場) | 事例発表：「笑顔が見たくて ～出会いがはじまり～」 講師：一関市教育委員会 社会教育指導員 齊藤 裕美 講義：「子ども、家族のチカラに寄り添う支援とは」 講師：岩手県立大学社会福祉学部 准教授 一般社団法人子どものエンパワメントいわて代表理事 山本 克彦 |
| 6 | 12/11(水) 基礎コース と共通 | 講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・子育て支援について考えるー」 交流会：「お茶べり場」地区の家庭教育支援をコーディネートしようよっ！ 講師：弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 | |

【成果と課題】

地域性を生かしたプログラムを立案することで、それぞれの地域において関わりを持つ人を増やすことができた。プログラム実践の講師の選定についても、地元の方を招いて行うことができたので、「地域とのつながり」という面で広がりを持たせることができた。

家庭教育基礎講座やスキルアップ講座等を通じて、家庭教育に係る今日的課題について学ぶとともに、家庭教育支援についても他の支援団体で活躍している方を講師に招き、カウンセリングや託児などの手法についても学ぶことができ、受講者に好評であった。

家庭教育支援者の発掘・育成については、一定の成果を得ることが見込まれるところであり、今後さらに家庭教育支援を地元市町村に定着させ、支援活動を発展させる必要がある。

家庭教育支援コンテンツ制作事業

【事業目的及び概要】

子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を広く知らせることを目的として、家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援教材を制作し、専門家等によって学術的に裏付けされた子育て情報を普及させる事業である。これらのコンテンツは及び啓発教材は、ホームページでの配信、各関係機関へDVD教材として配付、家庭教育支援セミナー等の各種研修で活用する。

【事業内容及び結果】

(1) 家庭教育支援コンテンツ制作企画委員会

- ア 第1回企画委員会 5/15(水)
- イ 第2回企画委員会(企画審査会) 6/12(水)
- ウ 第3回企画委員会 8/28(水)
- エ 第4回企画委員会 2/6(木)

(2) 家庭教育支援コンテンツの制作

- ア 40代の子育ては大変？
- イ 農業家族の支えあい
- ウ がんばれイクメン
- エ 子どもと向き合うシングルマザー
- オ 共に働き、共に子育て
- カ 発達障害と向き合って

- キ 親子で感動できる空間(美術館編)
- ク 子どもの力を引き出す大切な時間(幼稚園編)
- ケ 放課後の子どもたちを支える(放課後の居場所編)
- コ 家庭教育支援者の育成(県教育委員会編)
- (3) 家庭教育支援啓発教材の制作
 - ア 郷土の芸能で育む心と絆
 - イ 心を育む～あおもり性教育の現状～
- (4) 家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援啓発教材の活用
 - ア 制作したコンテンツ及び教材はホームページでの配信
 - イ 各関係機関へDVD教材として配付
 - ウ 平成25年度家庭教育支援情報交換会での活用等

[成果と課題]

企画委員会により検討された家庭教育支援コンテンツ及び啓発教材を完成することができた。また、DVD教材として学校や子育て団体等に配付し、さらに、ホームページ配信することができた。現在、各種研修会等で周知を行っているが、より一層周知の工夫が必要である。

家庭教育相談事業

[事業目的及び概要]

就学前児童から高校生の子を持つ親や家族に対して、気軽に相談できる家庭教育相談を目指し、過剰になりがちな子育て情報の中から、相談者に適切な情報を提供し、子育て中の不安や悩みを払拭することを目的として、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[事業内容及び結果]

- 対象：就学前児童から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族
- 実施回数：週2回 火・木曜日(祝日・年末年始を除く)
13:00～16:00 その他の時間は、留守番電話対応
- 場所：県総合社会教育センター1階 電話相談室(職員室内)
- 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係、不登校、反抗などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- 相談体制：県総合社会教育センター家庭教育担当職員及び家庭教育支援員が電話、メール(24時間受付)、面談(予約制)にて行う。
- 相談件数：31件(電話相談20件、メール相談11件)

[成果と課題]

相談内容は、問題行動や対人関係、養育・しつけに関することなど多岐にわたるものであったが、他の相談機関と連携しながら、より専門の相談機関を紹介するなど、相談者の悩みや不安を取り除くことに寄与することができた。また、アピオあおもり子ども家庭支援センターとの連絡会議を2回開催し、連携を深めることができた。今後は、チラシやポスター配布の他、各関係機関等と連携しながら、家庭教育相談を充実させていく必要がある。